



子どもの姿が出発点 ～「接続の質」を高める保幼小連携をめざして～

本市では、令和6年度から令和8年度までの3年間、上田小学校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）を架け橋プログラムのモデル校区とし、保幼小の架け橋期の教育の充実をめざしています。この通信では、モデル校区の取組を紹介していきます。今回は、7月30日に開催した上田こども園公開保育と合同研修会までの取組と、公開保育当日の様子をお伝えします。また、別紙で公開保育を通して見られた遊びを通した学び（資質・能力「10の姿」）と小学校教育とのつながりについて紹介します。

7月8日 指導講師による上田こども園公開保育事前訪問と相談会



相談会の様子

上田こども園公開保育と合同研修会開催に向けての相談会を行いました。指導講師として琉球大学教育学部講師の宮城利佳子先生を招聘し、保育の視察をしていただいた後、参観で見られた子どもの姿を踏まえた指導・助言がなされました。その他、公開保育と合同研修会の目的、参観の視点などについて共通理解を図り、実施園が当日のイメージを持てるよう意見交換を行いました。また、合同研修会でのグループ協議の持ち方についても、実施園や講師から意見が出され、とても有意義な時間となりました。

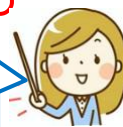
子どもの姿から出された遊び込みにつながる提案・アイディア 一部紹介



保育者

最近から色水・泡遊びが始まり、泡をソフトクリームに見立て遊ぶ姿が見られます。

トッピングして遊べるような草花などの素材があるといいかもしれませんね。子どもが自分で運べるテーブルも増やしてみましょう。



講師

水遊びが充実できるように、ダイナミックに遊べる砂場がもう一つあるといいですね。砂場の側に発泡スチロールのケースがあると様々な水遊びが見られるかも・・・



講師



保育者

スイカ割りを楽しみ、プランターの土に種を植える姿がありました。

スイカを使って何をするのかは、クラスごとに子どもたちと決められるといいですね。



講師



講師からのコメント

○子どもと保育者が対話を通して、遊びを広げていく視点が大切です。

○それぞれの子がやりたいことを見つけ、遊び込めるようにするために、どのような場所にコーナーを設置するか、材料や用具等はどうするか検討していくことも必要では？



泡遊びの様子

7月30日 上田こども園公開保育 ～子どもの姿から学ぶ～



3歳児の色水遊び



4歳児のお絵描き



5歳児の製作活動

公開保育では、保幼こ小の職員が子どもの遊び込んでいる姿や、その遊び（活動）の中でどのような資質・能力（10の姿）が育ってきているのか、を見取りました。



公開保育終了後の合同研修会 ～保幼こ小職員間同士の学び合い～

主体的な姿が
たくさん見
られました。



保育者の関わ
り方も参考
になりました。

小学校では、教
科書を中心
に学んでい
きます



子どもの遊び込んでいる姿や保育者の援助、環境構成の工夫などについてグループ間でシェアしました。

小学校の教科を見ながら、幼児期の遊びを通しての学びが小学校のどの教科等につながるのか話し合いました。



様々な活動からたくさんの10の姿の育ちが見られました。

参観で発揮されていた資質・能力（10の姿）について共有しました。

グループ協議終了後は、琉球大学教育学部講師の宮城 利佳子先生からスタートカリキュラム（架け橋期の教育）実践の紹介や、幼児期における遊び込みの重要性についての説明がありました。



上田こども園の皆様、ありがとうございました。参観者の皆様にとっては、今後の授業や保育へ生かすことができるヒントがたくさんあったのではないのでしょうか。子ども達が幼児期に経験している内容は施設によって多種多様であり、小学校入学後の育ちや学びには差異が見られることでしょう。だからこそ、保幼こ小の職員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、子どもの姿について語り合うことが大切です。

右のQRコードを読み込むと、架け橋プログラムや幼児教育に関する資料をダウンロードできます。是非、ご活用ください。

豊見城市幼児教育センター

